
黒猫

木村伊吹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒猫

【Nコード】

N3150C

【作者名】

木村伊吹

【あらすじ】

疲れた日々を送るOLが不幸の象徴の猫と出会い、逃げようとするが…

黒猫

古来より日本では黒猫に前を横切られると縁起が悪いという。
疲れた

自然と出る言葉がこれだった。

つまり、私は心身共に疲れており、私の中にある防衛機能がヘルプを求めているのである。などと考察しなくてもわかっている。

連日連夜会社に残り残業、幼少のころより勉強せねばいい会社に入れないといわれ必死に受験戦争に勝ち残り得た結果がこれか……。そう思えば何もする気にはならない。

果たして私は運がいいのであろうか？ 周りは私のことを一応エリートであると認識してくれるようだが、この生活を続けてまでそのエリートとやらを続けねばならないのだろうか。

連日残業は当たりまえ。休日出勤もせねばならない。こんな日々じゃ彼氏もできない。

25歳という年齢そろそろ結婚に逃げる時期なのか。そんな下らぬことを考えていたら、ふと私の視界の下のほうに黒い物体が現れた。

猫だ。

しかもただの猫ではなくこの暗い夜に同化できるほど真っ黒な。

これはいけない最近ただでさえついていないというのに、これ以上不幸になっではいけない。

だが、たしか黒猫は見るのではなく横切られれば運が悪いという。つまり、まだ横切られていない今はチャンスですらある。

よし、猫が私を眺めている今。チャンスだ。

走れ走るのだ。不幸から逃げ切るのだ。今日は幸いまだヒールの低い靴を履いている。そいやああ。

心の中で叫ぶ。

そして走る。酔っ払ったサラリーマンが突如疾走している私を見てぎよつとした顔でこちらを見ている。そんなことを気にするな。気にすれば幸せはゲットできないのだ。私の家のアパートまで横のコンビニを走りぬけ信用銀行とスーパーの間を走りぬけたどり着いた我が家。

よし、これで猫はまいたな。ゼヒユゼヒユ私は喘息患者のように酸素を求めている状態で今なら酸素一リットル二千円で買えるよ。ふと後ろを見るとまだ猫がいた。私は愕然とした。うそー私のやつたことって。絶望につつまれそう思い花壇のブロックに座り込むと猫が近づいて私のスーツにすりすり頭をこすり付けてきた。よく見ると子猫だ。

私はこんなちっちゃな子猫から逃げていたのか。そう思うと笑みが出てきて余裕が出てきた。みたところ首輪もついていないしただの野良であろう。私は私をびびらせた罰としてこの子猫を監禁もとい飼うことにした。この日以降黒猫は我が家の住人となっている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3150c/>

黒猫

2010年12月1日12時14分発行